

## お釈迦さまと農家との対話 (一)

お釈迦さまが、インドのマガダ国という農業が盛んな国にいたときのお話です。お釈迦さまが手に鉢を持ち、家々をめぐり、食べ物进行をいただく托鉢という修行をしていました。

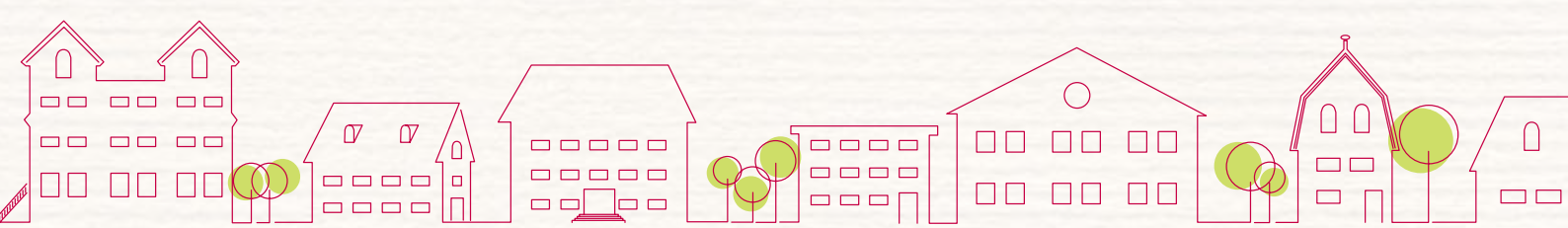
しかし、その時期はちょうど農家は、田を耕し、そして種をまく忙しい時期でした。そんな猫の手も借りたい大変な時に、穏やかな顔で托鉢をしているお釈迦様の姿を農家の一人が見て、近くによつていき声を荒げていいました。

「お坊さん、私達はどうして田を耕し、種をまいて食を得ているのだ。あなたもまた、自ら種をまいて、食を得たらどうだ」

そんな質問をされてしまいました。私達農家は額に汗し







てはたらいっているのに、働かないで食事を得ようとして  
いるお釈迦さまを問い詰めているのです。

そんな問いかけにお釈迦さまはさらりと答えていいまし  
た。

「その通りである。わたしもまた耕し、種をまき、そし  
て収穫して食を得ています」

農家は自分の耳をうたがうような顔をしてさらに質問し  
ました。

「だがお坊さん、私はあなたが田を耕したり種をまいた  
りする姿を見たことはないぞ。いったいあなたの鋤（田  
をたがやす道具）はどこにあるんだ。あなたの牛はどこ  
にいるんだ。またあなたはいったいどんな種をまいてい  
るんだ。

つづく

